バトルスピリッツ 激震の勇者

ブラスト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バトルスピリッツ　激震の勇者

【Ｎコード】
Ｎ６４０４Ｘ

【作者名】
ブラスト

【あらすじ】
主人公達が住む町は陽昇マヒルという男が作ったリアルバトルフィールドでみんな楽しくバトスピをやっていた。だが、その街である少年少女たちを巻き込んだ事件が起ころうとしていた。

バトルスピリッツ激震の勇者　キャラ紹介（前書き）

この話は、今放送中のアニメ「バトルスピリッツ覇王」と所々接点があります。
また、そのバトルスピリッツ覇王のキャラが小説に登場させようと思ってるので是非ご期待ください！

バトルスピリッツ激震の勇者　キャラ紹介

初めまして！ブラストと申します。
今日からバトルスピリッツの小説を書いていきたいと思います。
私は初心者なので、皆様の小説と比べたら面白みのない小説になるかもしれませんが、温かい目で見守っていただくと嬉しい限りです。
まずは早速キャラ紹介から書いて行こうと思います。

・若槻和人（わかつきかずと）
本作品の主人公。１５歳の少年で赤デッキの使い手。
キースピリットの「剣皇龍エクスキャリバス」を相棒と呼び、様々なカードバトラーと戦う。

・木野咲（きのさき）
和人とは幼馴染で、１５歳の女の子。
緑デッキを使うが、まだまだバトスピ経験は浅い。

・来道リクト（らいどうりくと）
１５歳の少年、白デッキの使い手。木野や和人とは大の仲良し。
昨年ガンスリンガーで川村と戦うが、惜しくも敗れる。

・川村劉（かわむらりゅう）
昨年のガンスリンガーを好成績で通過した１５歳の少年（？）。
青デッキの使い手で、粉砕などをメインとした攻めで相手をデッキアウトにさせる。

ただひたすらに強さに拘り、誰かに頼るのを嫌う。

以上４人のキャラ紹介です！
「エクスキャリバス」など少し古めのカードを紹介していますが、
勿論バーストなどの最新カードも話に登場させようと思ってます！

これからぜひよろしくお願いします！

第1話『出会いの始まり』（前書き）

はい！やっと第一話が完成！
そして一話目から現在放送中のアニメ、バトルスピリッツ覇王のあるキャラが登場！面白いかどうかは不安ですが、ぜひ見てってくれると嬉しいです。

第1話『出会いの始まり』

『メインステップ！』

とあるテレビ画面でバトルスピリッツで対戦している二名の人物が映される。一人は帽子をし、その帽子からはみ出した髪は青色の少年らしき人物。もう一人は白デッキを使っている、金髪の少年。

今の状況は互いのライフが三で白デッキの男の場には機人フィアラルＬｖ．２と翼神機グランウォーデンＬｖ．２が一体ずつ。もう一人の場にはグランガッチ、ロックゴレムＬｖ．２が一体ずつ、ネクサスは”崩壊する戦線”が二枚のみ、そして第７ターンを迎え、青年のターン。

『マジック発動”マジックドリル”と”マジックハンマー”を使用』

『またデッキ破壊か！』

マジックドリルの効果は相手の手札と同じ枚数デッキを破棄。そしてマジックドリルは相手デッキを５枚破棄。今、相手の手札枚数は５枚、つまりマジックハンマーの効果と合わせて、１０枚デッキを破棄される。

『じゃぁそろそろ終いだ、オリハルコンゴレムをレベル２で召喚』

『！？』

どこからか青い宝石のような物が出現し、それが砕けたかと思うと地面が大きく盛り上がり、そこからオリハルコンゴレムが現れる。

”グオオオオォォォォォォ――――――ッ！”

『さらにグランガッチと合体（ブレイヴ）させる』

ワニの姿をしたグランガッチがオリハルコンゴレムと一体となり、ＢＰが１１０００となる。

『行け、合体（ブレイヴ）スピリット』

プレイヤーがアタックを命令したと同時に、スピリットの目が青く光り、次の瞬間、機人フィアラルはグランガッチの合体時能力で破壊される。

『ライフで受ける！だが、フラッシュタイミング、デストラクションバリアを使用！これにより転生を持たない合体（ブレイヴ）スピリットを破壊』

オリハルコンゴレムはそのまま突っ込み、飛び上がると同時に大きな爪を振り下ろす。プレイヤーの周りにバリアのような物が展開されるが、オリハルコンゴレムの攻撃の前に簡単に破壊されてしまう。

だが、オリハルコンゴレムが相手のライフを削り、地面に着地したと同時にデストラクションバリアの効果によって破壊される。

『どうだ！』

『？……だからどうした？狙いはライフじゃなくてデッキだけど？』

『なっ！？』

そう言われると同時に自分のデッキを確認するが既にデッキ枚数はゼロ。そしてその後、ターンエンドを宣言し、相手のターンになるが、ドローできなくなった事で負けが確定し、そのまま決着してしまう。

『お、俺の負けだ』

そして次に画面が変わり、アナウンサーの女性が現れる。

『さぁ今のが、チャンピオンシップ一回戦の試合です！これが決勝戦と言っても過言ではない試合を展開してくれた青デッキ使いの川村劉選手の対戦動画でした！そして早速彼にインタビューでも――』

続きを言おうとした瞬間、”ブチッ”とテレビの切れる音がする。

「やっぱすごいぜ！バトスピ！」

さっきまでテレビを見ていたその少年はソファーを立ち上がり、さっきの映像の感想を言う。彼の名は若槻和人。１５歳で彼もまたバトスピが大好きな少年なのだ。

「かっこいいよな、よし！もう我慢できねぇ！早速バトスピセンターに直行だぁーーーッ」

すぐさま赤いデッキケースを持つと、玄関を飛び出しバトスピセンターというバトスピ専門の店へ足を急がせるのだった。

――――バトスピセンター

バトスピ専門店。それがバトスピセンター。
この店では、たくさんのバトスピカードを取り扱ったり、店中に置かれた台座でバトスピをプレイしているたくさんの人達。

「うおおおおッ！」

和人は店のすぐ目の前まで駆け寄るとそのまますごい勢いで店へと入店する。

「いらっしゃ――って、和人君か」

「おーっす店長！」

「今日は遅かったね、知り合いの咲ちゃんはもうとっくに来てるよ？」

「マジ！？」

和人とは顔馴染みの様子。この人物は村井知恵という名前でバトスピの知識に関しては群を抜くほどで、ここのバトスピセンターの店長をしているらしい。そして村井の言う咲とは、和人の幼馴染の女の子、木野咲のことだ。

「あっ、和人！どうしたの？遅かったじゃない」

「おぉ！実はバトスピニュース見ててすっかり遅れちまって」

「はぁ～、和人らしい。まぁ、さっさとバトルしない？」

「いいね！俺のデッキと早速バトルだ！」

そんな会話をしながら二人は台座にデッキを置き、バトスピの対戦を始める。

――――１０分後……。

「はい、ガブノハシでアタック」

「ら、ライフで受ける」

最後のライフが削られ、和人の敗北が確定。

「はぁ～、まだバトスピ経験浅い私に負けるんなんて」

「しょ、しょうがないだろ！今のは手札回りが悪かったんだ！フレイムサイクロンとかバスタージャベリンが来てれば！」

「前はそれを加えた手札で、レイニードルやディノニクソーが来ればとか言ってなかった？」

「うっ！」

ちなみに言うとこれまでの二人の対戦成績は１０戦中で木野が６勝４敗、和人が４勝６敗。
経験で言うと和人の方が上なのだが、実力はまだ初心者同然の木野より若干下。簡単にいえば、まだ彼は実力的に十分ではないという事だ。

「まぁ、もしかして私がバトスピ経験があるのかな？」

「くそぉ〜！」

もう一回と頼みこもうとする和人。だが、彼がそのお願いをする前に突如周りの人達から「おぉ〜」という声が聞こえてくる。

「！、やだ、今の勝利はまぐれなんですってば」

「おい木野、言っとくけどお前じゃないらしいぜ？」

「えっ？」

ふと後ろを見ると、そこでは髪型がアフロでサングラスをかけた一人の男性が既に何人共バトルし連勝しているからだ。

『すげぇよ、もうこの人１０連勝中だ』

『戦ってみたいけど、俺じゃぁ手も足も出ないんだろうな』

観戦している何名かの声が聞こえてくる。

それを聞いていた和人はデッキを持ち、その人の所に歩み寄る。

「さぁ、次の対戦相手は誰かな？誰でも受けて立つよ？」

「はい！はい！！はい次、俺やります！」

「おぉ～、いいよ！君の名前は？」

「若槻和人！おじさんは？」

「俺の名は、人呼んでアフローヌ！さすらいのカードバトラーさ！」

自信満々な様子で決めポーズを決め、名を名乗るアフローヌと言う人物。

「アフローヌ？ま、まぁともかく！早速バトルお願い！」

「おっと、ちょっと待って。君さっきそちらの女の子とバトルしてたよね？」

「えぇ？まぁそうですけど」

アフローヌと言う人物は木野を示しながらいい、その言葉に和人は頷く。

「その対戦を見てふと思ったんだが、少し君のデッキを見せてくれないかな？」

「あぁ、はい」

言われるままに和人はデッキをアフローヌに渡し、デッキを見てもらう。

「ふ～ん、ロクケラトプスやディノニクソーの軽量スピリットにフレイムサイクロンやトライデントフレアの除去系マジックがあるのか」

「ど、どうですかね？」

「確かに君のデッキはイイ感じだけど、もうひと押し足りないね」

「どういう事ですか？」

「赤は本来攻めることが最大の基本だ。だけど、君のさっきの戦い方を見て思ったが、君はどちらかというと守りの向けの戦い方をしていたね」

「えぇ、中々ＢＰの強いスピリットがなくて」

「ふ～ん、どうやら君のデッキには運命の一枚がないらしいね」

「？」

「ただカードの効果がいいとか、見た目がいいという理由じゃなく、自分が心の底から何かを感じたカード、それが運命の一枚だ！」

「運命の、一枚」

「よかったらカードを購入してみたらどうだい？少しの間待っててあげるよ」

「はい！」

すぐさま駆け出し、商品の棚にあるブースターパックを見る。

『どうだい？どれを買うか決まったかい？』

「少し待っててくださーい！」

大きな声で返事をするも、全部で１４弾もあるブースターパックのどれを買うか中々決められずに迷っている状態だった。

「あれ和人君？カードを買うのかい？」

「あっ！店長。まぁね」

「へぇ～、でもどれを買うか悩んでるようだね。まっ、じっくり選んでよ」

「はい！って、店長それは？」

和人はふと知恵の持っている一つの箱が気になる様子。

「あぁ、第7弾のパックが切れたからね、在庫から持ってきたのさ」

「へぇ～、確か第7弾って、どんなカードがあるんでしたっけ？」

「えぇ～と、確かメテオヴルムやビャクガロウとか、アレクサンダーとかかな？」

「う～ん……」

「あれ？もしかしてこれが気になったの？」

「ま、まぁそんなところです」

「へぇ～、じゃぁ少しお安くしてあげようかな？」

「いいんですか！」

「どうする？これにする？」

「はい！」

お金を渡し、知恵から第7弾のブースターパックを受け取る。

「よし！じゃぁバトルしに行ってきます！」

・・

「中身確認しないの！？それに後少し待てば例のあれがもうすぐ――」

続きを聞く事なく和人はアフローヌが待っている場へと急ぐのだった。

「おじさん！カード買ってきましたよ！」

「随分早いね。早速開封したらどうだい？」

ゼェ、ゼェと荒々しい息を一通り整えると、和人は直ぐにそのパックを開封する。

「そのパックは第7弾か。いいカードが当たるといいね」

「はい！」

開封後、中身のカードを取り出し一枚一枚をじっくり見つめる。
そしてその中の一枚に和人はふと気に取られる。

「このカード……！」

「どうだい？いいカード手に入った？」

「はい！何だかさっきおじさんが言ってたみたいにビビッと感じました！」

ブースターパックの中にあったうちの一枚、「剣皇龍エクスキャリバス」というカードを取り出しながら言う。

「へぇ～、中々いいカードじゃないか」

「はい！俺、早速こいつをデッキに入れてぜひ勝負お願いします！」

「いいよ！じゃぁ早速始め――」

『お～い！和人君！！』

バトルを始めようとした矢先、それを止めるかのように知恵が現れる。

「店長！どうしたの？」

「ハァ……ハァ……どうしたのって、今日はあれが届くって前から言ってたでしょ？バトルするならそこでどうかなって」

「？」

「あぁ～！確かこの店でもついにあれが届く日だったね」

アフローヌは何かを思い出したかのように言う。

「あれ？」

「和人、陽昇マヒルって人知ってる？」

「うぅん」

首を横に振りながら和人は答え、それに木野はあきれた様子だった。

「あのね、陽昇マヒルはリアルバトルフィールド、つまり人類最大の発明をした人でしょ？」

「あぁそう言えば！確かこの店でも！」

「そう、そのバトルフィールドがこの店でも設置されるのよ」
「そうだった、そうだった！リアルバトルフィールド、俺ぜひそこでバトルしたいと思ってたんだ」

「そうか」
その言葉を聞いたアフローヌは笑みを浮かべながら口を開く。
「だったら、今から僕とやる試合はそこでしないかい？」

「えっ！」
「君も運命のスピリットを手に入れたようだし、大迫力のフィールドでスピリットと会いたいだろ？」
「はい！ぜひお願いします！！」

「そう言う事なら、ぜひこの店のフィールドで戦う第一号として頑張ってね二人とも！」
「「勿論！」」
それだけ言うと、二人はステージの前まで行き、他の観戦者達はステージの横にあるモニターを必死に眺める。

「じゃぁ、二人とも、あのセリフは言えるよね？」

「勿論！行くよおじさん！」

「あぁ、それじゃぁ始めるか！」

「「ゲートオープン！開放！！」」

二人がその言葉を放つと、光に包まれ二人はその場から消え、リアルバトルフィールドへと移動するのだった。

第1話『出会いの始まり』（後書き）

いかがでした？第一話！

和人「何か色々駄作だけどな」
木野「まっ、次からは頑張ってよ」

頑張るからさ、批判はやめようね。
次回は主人公の第一バトル！ぜひご期待ください！
ちなみに今回はアニメでも登場したアフローヌが登場！今後もアニメキャラが登場するかもしれませんがぜひよろしくお願いします。

第2話『剣龍皇エクスキャリバス爆進！』（前書き）

はい、お待たせしました！バトルスピリッツ　激震の勇者、第2話の公開です！相変わらず文章力がなく、面白いかどうかは不明ですが、一目見ていただくと嬉しい限りです。

第2話『剣龍皇エクスキャリバス爆進！』

「おぉ！これがバトルフィールドか～！」

大迫力のステージに立ち、興奮気味の和人。

「感動してるとこ悪いけど、早速始めないか？」

「あっ！はい！行きますよ、おじさん！」

先行は和人からで、試合は始まる。

「スタートステップ！」

和人の言葉に反応するかのように台座が光り、その後ドローステップを行い一枚ドローする。

和人の手札４枚→５枚。

「行くよ！メインステップ！ディノニクソーをＬｖ．２で召喚！」

コスト１のディノニクソーに３コアを乗せて台座に置くと、ルビーの宝石がどこからか現れ、それが砕けると小さな恐竜、ディノニクソーが現れる。

「ウォーッ！すっげ！！すっげ！！ディノニクソーがこんな目の前に！」

「そうか、君は確かスピリットを間近で見るのは初めてだよね？初のスピリット召喚の感動は確かに分かるよ」

「はい！こんなにリアルなディノニクソーを見れて感激です！」

「はは、その気持ち確かに分かるよ。さぁまだ君のターンだ。続けてくれ」

「えぇ～と、俺はこれでターンエンドです」

――――第２ターン。

アフローヌはスタートステップを行った後、コアステップとドローステップを行う。
アフローヌ手札４枚→５枚　コア４個→５個。

「メインステップ！さぁ今度は俺の番だ。リュザードを二体召喚！内一体はＬｖ．２だ」

さっきディノニクソーが現れた時と同じ要領で、ルビーの宝石が二つ出現し、それが砕けると二体のリュザードが出現する。

「行くぜ、アタックステップ！Ｌｖ．２のリュザードでアタック！ここでリュザードのアタック時効果発動！」

・リュザードＬｖ．２のアタック時効果。
自分の赤のスピリット一体につき、ＢＰ＋１０００。

「俺の場には二体の赤スピリット、よってＢＰ＋２０００で４０００だ」

リュザードの周りに赤い波動が集まり、リュザードのパワーが高まり、そのまま和人へと突っ込んでいく。

「（ＢＰ４０００じゃ、ディノニクソーでブロックしても相討ち。無闇にディノニクソーを破壊される訳にはいかない。ここは……）」

「さぁ、この攻撃はどうする？」

「ライフで受けます！」

和人の周りにバリアが展開され、そのバリアにリュザードが真正面から突進し、そのバリアを砕く。

”パリーンッ！”

「痛ぁッ！！」

和人残りライフ５→４。

ライフで受けるとそれなりの衝撃がプレイヤーを襲い、後ろに後退させられる。

「大丈夫かい？」

「つっ……まだまだ！この痛みが次のチャンスにつながるんですから！」

和人の言葉と共に、リザーブにさっきライフで受けたコア一つが置かれる。

「ＯＫ、中々いい気合だ！まだまだ勝負はこれからだね！」

「はい！」

「じゃぁ、俺はこれでターンエンド」

――――第３ターン。

和人はスタート、コア、ドローステップを行う。
手札４枚→５枚　コア５個→６個。

「メインステップ！ディノニクソーをレベルダウン！」

ディノニクソーからコアを二個リザーブに戻し、それによりディノニクソーはＬｖ．１となりＢＰは１０００と、パワーダウンする。

「さぁ一気に行きますよ！レイニードル！アンキラーザウルスを召喚！」

レイニードルとアンキラーザウルスどちらにもコアを二個ずつ置いた後、二つのルビーが出現し、それが砕けると、レイニドールは突如現れた雷雲から、アンキラーザウルスは地面を突き破るようにして現れる。

”” ガアアアアアァァァァァ――――ッ！””

レイニードルとアンキラーザウルスの二体の咆哮がフィールド中に広がる。

「うぅっ！レイニードル、アンキラーザウルス！やっぱかっこいい！」

新たな二体のスピリットを見て、さらにテンションが上がる和人。

「低コストスピリットを並べて場を固くする。中々いい戦い方だよ」

「はい！それじゃ行きますよ！アタックステップ！さっきのお返しにレイニードルとアンキラーザウルスでアタック！」

アタック宣言と共にアンキラーザウルスとレイニードル、二体の龍がアフローヌに突っ込んでいく。

「ふっ、どちらもライフで受けるよ」

アンキラーザウルスは尻尾のドリルを回転させて起こったトルネードを、レイニドールは口を大きく開いて光線をそれぞれアフローヌに放ち、周りに展開されたバリアを簡単に砕く。

”パリーンッ！”

「ッ！中々効くね」

痛みを喰らいつつも、笑みを浮かべるアフローヌ。

二体のアタックをライフで受けた事によってライフは3に減ったが、コアは7個に増える。

「俺はこれでターンエンドです」

――――第4ターン。

スタート、コア、ドローを行い手札は4枚、コアは8個に増え、その後リフレッシュステップを行い、疲労しているリュザードが回復する。

「さて、メインステップ。こっから俺のターンと行かしてもらうよ」

「はい！」

「カグヅチドラグーンをＬｖ．２で召喚！」

炎に包まれた竜、カグヅチドラグーンが姿を現し、力強い咆哮を上

げる。

「さぁ行くよ！」

「！」

「アタックステップ、カグヅチドラグーンでアタック！」

アタック宣言をすると、カグヅチドラグーンは翼を羽ばたかせ、和人へと迫っていく。

「（次のターンを考えると、ライフで受けた方がいいな）ここはライフで――」

「いや、君は必ずブロックしないといけない」

「えっ？」

「カグヅチドラグーンは【激突】の効果を持ってるからね」

「しまッ！」

・【激突】効果説明
このスピリットのアタック時、相手は可能ならば必ずブロックしなければならない。

「さらにカグヅチドラグーンのアタック時効果で俺は1ドロー」

「くっ、アタックはディノニクソーで受けます」

”ギャオオオオオォォォォォォ――――――ッ！”

カグヅチドラグーンは咆哮を上げながら、ディノニクソーに向かって火炎放射を放ち、ディノニクソーも自分の火炎放射で迎え撃つが、BPは圧倒的な差で、すぐにカグヅチドラグーンの火炎放射に押されて、火炎放射を浴び、ディノニクソーは倒れてしまう。

「！」

「さらにリュザードLv．2でアタック！」

「ライフで受けます！」

「ふっ、フラッシュタイミング！マジック、フレイムダンスを使用！」

相手がライフで受けるのを宣言したと同時にフラッシュタイミングでカードを使用。

「マジックカード！？」

・フレイムダンス効果説明
相手のＢＰ４０００以下のスピリットを一体破壊。

「不足分のコストはカグヅチドラグーンをＬｖ．１にして確保。そしてマジックの効果でアンキラーザウルスを指定する」

「そんな！？」

アンキラーザウルスの足元に炎が現れ、その炎でアンキラーザウルスを破壊されてしまう。

「そしてリュザードのメインアタック！」

リュザードが突っ込み、ライフを砕けれ、後ろに弾かれる。
和人残りライフ４→３。

「うぐっ！」
痛みが和人を襲うも、コアは７個に増える。

「うっ……」

「俺はこれでターンエンド」

――――第5ターン。

「強い！だけど、このほうが俺はテンション上げ上げだぁ！」

「へぇ～、君みたいな子、どこかで見た気がするよ」

「ん？」

「嫌、何でもない。続けてくれ」

「はい！」

スタート、コア、ドローステップ後、手札は4枚、コアは8個。
そしてリフレッシュステップ後、レイニードルは回復。

「行きますよ、オヴィラプトとサーベカウラスを召喚！」

オヴィラプトとサーベカウラスが現れる。

「さらにマジック！エクストラドローを使用！」

「手札増強系マジックか」

・エクストラドロー効果説明
デッキから二枚引いた後、三枚目をオープンして赤のスピリットカードなら手札に加える。

二枚引いた後、一瞬和人の眼が変わり、それをアフローヌは見逃さなかった。

「（あの内の二枚カード、一体？）」

そしてその後三枚目をオープン、しかし来たカードはマジックカードのドラゴンズラッシュのため、手札に加えられない。

「これでターンエンド」

「あれ？何もしないのかい？」

「今は守りを固めるのが優先ですから」

「さっきの戦いと一緒じゃないのかい？」

「鎌掛けようとしても無駄ですよ。状況判断して俺が選んだ結果です」

「なるほど、いい目だ。じゃぁ君が選んだ結果がどうなるのか俺のターンで分かる」

――――第８ターン。

アフローヌはメインステップまでの準備を進め、手札は４枚、コアは９個に増える。

「（さてここからだが、相手のスピリットはレイニドールＬｖ．２、オヴィラプト、サーベカウラスＬｖ．２が一体ずつ。だが注目すべきところはあの子の手札にある）」

アフローヌは和人の手札を睨む。

「（さっきのエクストラードローで引いた二枚のカード、その内一枚はキーカードとなりうる高コストスピリットと見た。だから次に引くカードであるドラゴンズラッシュと組み合わせてのコンボを狙う。ならばその前にこのターンで決着をつけなければ）」

自分の手札を見て、アフローヌは笑みを浮かべる。

「メインステップ！リュザードをレベルダウン。さらにオードランを召喚」

コスト０のオードランが小さな翼をはばたかせながら地面に降り立つ。

「さぁ行くよ！こっからが本番、覇龍ヴァダンライザーを召喚！」

「！？」

大きめのルビーが出現し、それが砕けると地面を突き破るように覇龍ヴァダンライザーが現れる。

「不足コストはオードランから確保」

オードランから一個は取り除かれ、オードランは破壊。

「さぁ、覇龍ヴィダンライザーの召喚時効果発動！」

・覇龍ヴィダンライザーＬｖ．１、２、召喚時効果。
このスピリットの召喚時、相手のＢＰ３０００以下のスピリットを全て破壊する。

「つ、つまり！」

「そう、君のオヴィラプトとレイニードルは破壊だ」

”グオオオオオォォォォォォ――――ッ！”

覇龍ヴァダンライザーは炎を纏わせた腕を地面に叩きつけ、レイニードルとオヴィラプトの足元に火柱が立ち、それにより二体は破壊されてしまう。

「！」

「これで君のブロッカーはサーベカウラスだけ。行くよ、アタックステップ！覇龍ヴィダンライザーとリュザードでアタック！」

「！、ライフで受けます」

リュザードの突進とヴァダンライザーの拳が決まり、残りライフは１つとなり、コアは１０個。

「まだまだ行くよ！カグヅチドラグーンでアタック！効果で一枚ドロー、さらに【激突】発動！」

「サーベカウラスでブロック」

サーベカウラスは受けて立つ素振りを見せ、こちらに向かって来るカグヅチドラグーンを見る。

「フラッシュタイミング！グレートリンクを使用！」

「！？」

・グレートリンク効果説明。
自分のトラッシュにあるコアすべてを、【覚醒】を持つ自分のスピリット一体の上に置く。

「コストはリザーブから確保し！このマジックで使用した２コアを、さらに第７ターンで使用した４コア、計６コアをサーベカウラスの上に置き、Ｌｖ．３にアップ！」

「！、これじゃぁカグヅチドラグーンは返り討ちか」

カグヅチドラグーンの放った炎をサーベカウラスはジャンプで交わすと、カグヅチドラグーンに取り付き、爪をカグヅチドラグーンに突きたて、爆発が起こり、サーベカウラスはその爆風から飛び出して、和人のフィールドに戻る。

「だが、まだ俺のアタックは終了してない。リュザード！行け！」

「こっちもまだだ！フラッシュタイミング！フレイムサイクロンを使用！コストはサーベカウラスから使用！」

・フレイムサイクロン効果説明
ＢＰ５０００以下の相手スピリットを一体破壊する。

「これによりリュザードを破壊！」

「！、まさかこの攻撃にカウンターをぶつけてくるなんてね」

「へっへ！どんなもんですか」

炎の竜巻にリュザードは呑まれ、破壊される。
これ以上は何もできないため、アフローヌはターンエンド。

――――第９ターン。

「行くぜ！」

メインステップまでの準備を進め、手札は二枚、コアは１１個。

「サーベカウラスをＬｖ．１にダウン！」

「相手の手札は二枚、それでどうする気だい？」

「まだまだ！マジック、エクストラドローを使用！」

「！、手札増強系マジック、まだ仕込んでいたとは」

「二枚引いて、三枚目をオープン！そのカードは……」

そのカードを見て、和人は笑みを浮かべる。

「三枚目は剣龍王エクスキャリバス！」

「！？、ここで来たか……君にとって運命の一枚」

「このターンで決めて見せます！レイニードル、ロクケラトプスを召喚！そして、サーベカウラスを【転召】！」

・【転召】効果説明。
条件を満たしたスピリットのコアを指定場所に置いて、召喚できるスピリットの事。

サーベカウラスが赤い炎に包まれ、その炎の中に一つの影が……。

「炎纏いし龍の皇！剣龍皇エクスキャリバスを召喚！」

その影は炎を振り払い、火の粉でその身を輝かしながら力強い咆哮を上げる。

「うぉぉぉーーーーッ！出たぜ！出たぜ！俺の運命のカード！エクスキャリバス！」

”グオオオオオォォォォォォ――――――ッ！”

「なるほど、確かにかっこいいドラゴンだな」

「さぁ、まずはこいつの召喚時効果！」

・剣皇龍エクスキャリバスＬｖ．１、２召喚時効果。
このスピリットの召喚時、ＢＰ合計６０００分になるよう相手スピリットを好きなだけ破壊する。

「これにより、おじさんの場に居るヴァダンライザーＢＰ４０００とリュザードＢＰ１０００の二体を破壊！」

”グオオオオオォォォォォォ――――――ッ！”

翼を羽ばたかせ空へと舞い、そのまま回転して自身の体に炎を纏わせてリュザードとヴィダンライザーに突っ込み、破壊する。

「！」

「そしてアタックステップ！剣皇龍エクスキャリバスでアタック！」

ヴィダンライザーとリュザードを破壊し、相手の場を一掃しただけでなく、このターンでエクスキャリバス、レイニードル、ロクケラトプスでアタックすれば和人の勝利が確定する。もう目の前にある勝利を確信し、和人は笑みを浮かべる。

だが、アフローヌの実力はまだそんなに甘いものではなかった。

「フラッシュタイミング！」

「！？」

「マジック、ヴィクトリーファイアーを使用！」

「そ、そのマジックって！？」

・ヴィクトリーファイアー効果説明。
ＢＰ３０００以下の相手スピリット、二体を破壊。

「これにより君のレイニードル、ロクケラトプスを破壊する！」
フィールドに突如Ｖの形をした炎が現れると、その炎はエクスキャリバスのすぐ隣を突き抜け、後方に居るロクケラトプスとレイニードルを破壊する。

「嘘！？」

「エクスキャリバスはライフで受ける」

エクスキャリバスの炎を喰らい、残りライフは二つ。

「お、俺はこれでターンエンド」

第８ターンのカウンターをまさかのカウンターで返されてしまった和人。

これによりただ勝利を逃してしまっただけでなく、ブロッカーさえも残せなくなってしまったのである。

「じゃぁ俺のターン」

コアステップ、ドローステップを行った後、自分の手札を見る。

「どうする？まだ続ける？」

「当り前じゃないですか！フィールドに立ったら最後まで戦います！」

「よく行った。それじゃぁ続けようか」

手札の内、一枚に手を掛ける。

「君の相棒を見せてもらった礼に、俺も相棒を見せてあげよう」

「！」

「燃え上がれ赤き龍！熱く！激しく！魂の雄たけびを今ここに！！覇王（ヒーロー）Ｘレア、龍の覇王ジーク・ヤマト・フリードを召喚！」

突如雷雲が現れ、その雷雲に穴が開いたかと思うとそこから一体の龍が舞い降り、赤き炎に包まれた剣を握りしめ、後ろの雷鳴をバックに唸りを上げる。

”グオオオオオォォォォォォ――――ッ！”

「こ、これが……龍の、覇王」

「終わりにしよう、アタックステップ、ジークヤマトフリード！決着をつけるぞ！」

「！……ラ、ライフで受けます！」

最後のライフをヤマトは赤き剣を振り下ろして砕き、ライフが０になったため、勝負がつく。

「いい勝負だったよ、運命の一枚に出会って君のデッキも進化したようだね」

「はい！ありがとうございます！」

試合を終え、バトルフィールドから出てくる二人。
そしてそんな二人の試合を見て観戦者達は、祝福の声を二人に送る。

「でも惜しい事を言うと、君はドラゴンズラッシュを使えずにいたね」

「え、えぇ」

「まだまだ君のデッキも君自身も成長する。もっともっと頑張るんだよ」

「はい！」

「よし！じゃぁ君の成長を記念して、これを送ろう」

「？」

アフローヌから一枚のカードを渡され、それを見ると、それはさっきの試合で使っていたヴィダンライザーだった。

「！？、いいんですか？Ｍレアなのに！？」

「いいんだよ。僕より君の方がそいつを存分に力を引き出せるし、なにより君のキースピリット、エクスキャリバスと相性がいいはずだ。ぜひこれからも頑張ってよ！」

「はい！ありがとうございます！」

「よし、それじゃそろそろおじさんも行かないとな。今日は君みたいな強い子にもたくさん会えたし、またちょくちょくここに遊びに来るからその時はよろしくね」

「「「はーい！」」」

その場に居た全員アフローヌに返事をすると、アフローヌは笑顔でその場を後にした。

「よかったね。和人！強力なスピリットが手に入って」

「あぁ！ヴィダンライザーが手に入ったのも嬉しいけど、何より俺の運命のカード！エクスキャリバスと出会えたのが何より嬉しいぜ！」

「じゃぁもっともっと強くならないとね！」

「あぁ、今日は負けたけど、今後はもっとこいつの力を引き出して絶対勝つぞーーッ！」

次こそ絶対に勝つという意思表示をしながら、その店を後にする和人と木野であった。

第2話『剣龍皇エクスキャリバス爆進！』（後書き）

どうでしたか？第二話！

和人「俺の運命の一枚、エクスキャリバス初登場の回だ！」
木野「運命の一枚、私も手に入れたいな」

和人「やっぱバトスピは最高！まだ始めてない人もぜひ始めて欲しいぜ！」
木野「ルールについては『バトスピルール』と検索！」
和人「説明については他人任せ何だな」

木野「そんな事はともかく！次回もよろしくね！」
和人「お、俺からもよろしく！」

第3話『新しい出会い』（前書き）

始まりました第三話！
今回もぜひ頑張って書いていくのでよろしくお願いします。

第3話『新しい出会い』

「じゃぁ俺のターン！ブライトライデントを転召！」

バトルフィールドではなく、普通の台座でバトルしている和人と咲。そしてそのバトルの様子を映し出しているモニターの画面では、コスト3のブライトライデントが消滅し、エクスキャリバスが現れる。

”グオオオオオォォォォォォ――――ッ！”

「召喚時の効果！ＢＰ合計６０００分になるよう好きなだけ破壊」

「！？、ってことは」

「ガブノハシＢＰ１０００、ビートビートルＢＰ１０００、グラントベンケイＢＰ４０００、つまりお前の場のスピリット全てを破壊！」

三対のスピリットが炎に包まれ、消滅してしまう。

「！」

「エクスキャリバスでアタック！」

「ら、ライフで受ける」

残り一個のライフをリザーブに下げ、ライフが０となる。

「よっしゃぁ～ッ！俺の勝ちだ！！」

「はぁ～、負けちゃった。そのカード、エクスキャリバスを手に入れてから随分強くなったよね」

「まぁな！あのおじさんに言われた通り、このカードに出会ってから一気に全てが変わったんだよね」

「まぁ最近の戦い方を見る限り、守り重視から攻め重視の戦略に変わったよね」

「あぁ、こいつと一緒にもっともっと強くなっていく！」

そんな事を言いながら、台座から立ち上がり何かを決心したように他の人たちを見る。

「誰か、俺と一勝負しない？」

『じゃぁ俺とやろうぜ！』
『いや、俺とやろう！』

さっきのバトルを見て、戦ってみたいと思ったのか数名のカードバトラー達は和人に勝負を挑む。

「よーし！かかってこい！」

デッキを持ち、対戦者とバトルを開始する。

「すっかり上達したようだね。和人君」

バトスピショップの店長である村井知恵。彼女は和人達の様子を見て微笑ましい物を感じていた。

”ウィーンッ”

「あっ、いらっしゃい」

自動ドアの開く音がし、そこにはデッキケースを腰につけ、歳は和人達と変わらない少年が居た。

「すいません。第１１弾のカードをくれますか？」

「はい。第１１弾ね」

パッケージに太陽神龍が派手に飾られている第１１弾のパックを渡すと、少年はそのパックを開き、中のカードを取り出す。

そしてカードを確認していき、その内の一枚がＸレアである宝瓶神機（ほうべいしんき）アクア・エリシオンのカードだった。

「おめでとう！Ｘレア。当たってよかったね」

「ありがとうございます。このカード特に手に入れたかったカードなんです」

「そうなんだ」

「えぇ、あいつとの再戦のために」

「？」

そんな中、カードバトラー達が何かでにぎやかになっている事に気づく。

「何かあるんですか？」

「まぁあるカードバトラーが大活躍ってとこかな」

「面白そうですね」

そう言うと少年はその場に近づいていく。

「暴双龍ディラノスＬｖ．２でアタック！」

「キジトリアＬｖ．２でブロック！」

互いのＢＰは５０００。本来なら、二体とも相討ちだが、ここでディラノスの効果が発動する。

・暴双龍ディラノスＬｖ．１、２、３の効果。

【覚醒】を持つ自分のスピリット全てにＢＰ＋１０００。

・暴双龍ディラノスＬｖ．２、３『お互いのアタックステップ時』

地龍を持つ自分のスピリット全てに【覚醒】を与える。

「よってバトルはディラノスの勝ち！」

「ぐっ！」

ディラノスの口から放たれる炎によってキジトリアは消滅。

「ロクケラトプスでアタック！これで決まりだ！」

相手のライフが0となり、和人の勝利となる。

『すげー、さすがは運命の一枚を持ったバトラーだぜ』

『もう5連勝以上してんじゃない？』

観戦者達の声、それを聞くと少年はぜひ自分も戦ってみたいと思う。

「さぁ次は誰だ？」

「じゃぁ、次俺とやらないか？」

「おっし！じゃぁ早速やろう――――！」

振り返りお互い、顔を確認すると、何かに気付いたようで……。

「「あぁーーーーッ！」」

互い互いを指さしながら、お互い驚いた表情を見せる。

『？』

何の事なのか全く分からない様子の観戦者達。
そこへ観戦者達を押しのけ、咲が来る。

「和人何騒いでんの？って……リクト君！？」

咲がリクトという少年。彼の名は来道リクトと言い、咲や和人達とは昔の幼馴染なのだ。

「随分懐かしい、ほんと久々だな」

「俺も、久々に会えてうれしいぜ」

「それよりしばらく見ない間に随分強くなったようだな」

「あぁ！俺は運命の一枚って奴に出会ってな！」

「運命の一枚？」

「あぁ、俺の運命の一枚！剣龍皇エクスキャリバスだ！」

きらきらと輝くエクスキャリバスを持ち、リクトに見せる。

「運命の一枚か、それって自分が何かを感じた一枚って事か？」

「あぁ！その通り！！」

「それなら、俺にも運命の一枚と呼べるカードはある」

「！？」

「まっ、その一枚はバトルで見せる。それより、バトル始めないか？」

「あぁ！」

「どうせなら、バトルフィールドでしないか？」

リクトの提案に和人は力強く頷き、二人はフィールドに立つ。

「「ゲートオープン！開放！！」

二人は光に包まれ、リアルバトルフィールドへと移動する。

第3話『新しい出会い』（後書き）

いかがでしたか？
今回は咲と和人の幼馴染である来道リクトが登場！
さらに次回、いよいよリクトの実力を公開していきたいと思います！
リクト「問題はそれを早く書けるかだけどね」
和人「まぁ更新ペース遅いから」
ちゃんと急いで書きます！

という訳で次回も宜しくお願いします

第４話『剣龍皇ＶＳ月光龍　炎と月の大激突！』（前書き）

はい！今日は出かける前に時間があったので、書きあげている第４話を投稿したいと思います。
そして前回登場したリクトの実力はどれほどのものなのか！ぜひ一度ご覧ください！

第４話『剣龍皇ＶＳ月光龍　炎と月の大激突！』

光に包まれ、バトルフィールドに現れるリクトと和人。

「やっぱバトルフィールドだと、ものすごくテンションが高くなる」

「まっ、俺もお前もスピリットを間近で見たいと小さい時から思ってたっけな」

「あぁ、その思いが実現できて！ホント幸せだ」

「ふ、余韻に浸るのはいいけど、さっさと始めようか？」

「そうだよな。じゃぁ俺からの先行で！」

「構わない」

――――第１ターン。

「それじゃぁ、スタートステップ！」

和人からの先行で始まり、バトルが開始される。

「ドローステップ！、そしてメインステップ！」

手札のカードの内一枚に手を掛ける。

「ネクサス！”千識の渓谷”を配置！」

「ネクサスカード？随分珍しい」

「へへ！俺だってネクサスを配置するさ」

和人の後ろに”千識の渓谷”がまるで城のように現れる。

「へぇ～、ネクサスってこんな出方するんだ」

「おいおい、んな事は後だろ？」

「おっと、そうだった。俺はこれでターンエンド」

――――第2ターン。

「俺のターン、スタートステップ、コアステップ、ドローステップ」

コア、手札共に5つに増え、そしてリクトはそのままメインステップに入る。

「ノーザンベアードを召喚、Ｌｖ．２」

白いダイヤモンドが砕け、ノーザンベアードが現れる。

「俺はこれでターンエンド」

「あれ、何もしないの？」

「？、ノーザンベアードは守りに適したスピリット。ブロッカーとして残すのが普通だろ？」

「あっ、そういやそうだな」

「お前、まさか守り重視じゃなくなったからって、極端に攻めてばかりいるんじゃないだろうな？

「……まぁね」
軽く頬を掻きながら、リクトに応え、少しあきれた様子だった。

「状況によっては、例え攻めに適した赤でもブロッカーに残せよ？」

「と、とにかく！これでターンエンドだよな」

「あぁ」

――――第３ターン。

「行くぜ！スタートステップ！」

そしてその後コア、ドローステップを行う。
コア５個　手札５枚

「レイニードルを召喚！」

レイニードルにコアが一つ置かれ、Ｌｖ．１でフィールドに出現する。

「そしてネクサス、”決闘台地”を配置！」

「またネクサスか」

「そしてマジック！エクストラドローを使用！」

「！」

「このマジックはデッキから二枚ドローした後、三枚目をオープンしてそれが赤のスピリットなら手札に加える」

マジックの効果に従い、二枚をドローをした後、三枚目をドローする。

そしてその三枚目は”龍皇ジークフリード”なので、手札に加えられる。

「まだまだ行くぜ！バーストをセット！」

「！」

・バースト説明

裏向けのまま、専用場所にセットし、発動条件が満たされるまでそのままの状態のカード。

バーストがセットされ、リクトの目付きが変わる。

「俺はこれでターンエンド」

――――第４ターン。

（やっぱり和人、成長してるな。面白くなりそうだが、あまり長勝負をする訳にはいかない）

ある事がリクトの脳裏を横切りつつも、スタートステップを行い、メインステップまでの準備を終える。
コア、手札共に６つ。

「ノーザンベアードをレベルダウンさせて、レーヴァテインとミブロックソルジャーを召喚！」

ノザーンベアードからコア一個を取り除き、レベルがダウンするも、レーヴァテインとミブロックバラガンが新たに現れ、リクトのスピリットは計３体。

「ミブロックソルジャー召喚時効果発揮！」

・『ミブロックソルジャーＬｖ．１、２召喚時効果』
相手スピリット一体を手札に戻す。

「つまりレイニードルを手札に戻す」

「！」

ミブロックソルジャーの刃から放たれた斬撃破がレイニードルに直撃し、レイニードルはその場から消え、手札となって和人の元へ戻る。しかし、それを見て和人には笑みが……。

「待ってたぜ！」

「何！？」

「バースト発動！マジック、双翼乱舞！！」

・双翼乱舞『効果説明』
バースト発動時、自分はデッキから二枚ドローする事が出来る。

「これで俺は二枚ドロー！」

「随分と手札を揃えていくんだな」

「まぁ、手札あってこその戦略だし」

「へぇ～、でもまだ俺のターン。続けるぞ、アタックステップ！」

「！」

「レーヴァテイン、ミブロックソルジャー、行け！」

「ラ、ライフで受ける！」

レーヴァテインとミブロックソルジャー、二体のスピリットが振り下ろす刃がプレイヤーに展開されたバリアを砕き、ライフで受ける痛みと共に残りライフが3まで削られる。

「ターンエンド」

――――――第５ターン。

「スタートステップ！コアステップ、ドローステップ！」
コア８個　手札８枚。

「手札もコアも揃ってきたし、どういう戦略で行く？」

「さぁな、メインステップ！レイニードルを再び、そして龍皇ジークフリードを召喚！」

コアが置かれ、雷雲からレイニードールが、そして地面から噴き上げた火柱の中からジークフリードが出現する。

「４コア追加でジークをＬｖ．３に！そのままアタックステップ！ジークフリードでアタック！」

「ノーザンベアードでブロック！ブロック時効果発動」

・ノザーンベアードＬｖ．１、２のブロック時効果。
ブロック時、ボイドからコアを一つ、このスピリットの上に置く。

その特殊効果により、ＢＰは５０００になるも、龍皇はその二倍のＢＰを誇り、勝負は目に見えている。
予想通りジークフリードは向かってきたノーザンベアードを軽々と

持ち上げると、そのまま投げ飛ばし、ノーザンベアードを倒す。

「俺のターンはエンド」

――――第６ターン。

リクトのターン、スタートステップ後、その後リクトはコア、ドローステップを行う。
コア７個→８個　手札４枚→５枚

「ここまではほぼ互角。でも俺の元にようやくお気に入りの一枚が来た」

「！、キースピリット！？」

「あぁ、覚悟はいいか？」

「来い！」

「メインステップ、これが俺のキーカード！月光龍ストライクジークヴルムを召喚！」

白い月がフィールドを照らし、ストライクジークヴルムが姿を現す。

”ギャオオオオオオォォォォォォ――――――ッ！”

「！、ストライクジークヴルム！かっこいい！！」

「あぁ。こいつを手に入れて、いつか間近でこのスピリットを見てみたいと心の底から思ってたからな」

「それ分かる！俺も今場にいるジークフリードとか、エクスキャリバスを間近で見てみたいと思ったしな！」

「ふっ、やっぱり和人は和人だな」

「？」

「何でもない。続けるぞ、レーヴァテインとミブロックソルジャーから全てのコアを外す」

二体のスピリットはコアを外したため、消滅。

「そしてそのコアを使って、鳳凰龍フェニックキャノンを直接合体（ブレイヴ）」

翼を羽ばたかせながらフェニックキャノンが出現し、それが砲台のような姿に変わると、ストライクジークヴルムと合体する。

「！、すげ～！合体―スピリット！」

「いちいち興奮しすぎだろ？」

「はは、テンションが高くなって」

「続けるぞ、フェニックキャノン召喚時効果でレイニドールと千識の渓谷を破壊」

ストライクジークヴルムから火球弾が放たれ、ネクサスとレイニードルが破壊される。

「！」

「アタックステップ、行け！合体スピリット！！」

「ラ、ライフで受ける！」

合体スピリットは翼を羽ばたかせ、空中を舞うと、強烈な荷電粒子砲が放たれ、展開されたバリアを簡単に砕き、残りライフは2。

「ターンエンド」

――――第7ターン。

和人はメインステップまでの準備を進め、ジークフリードは回復。
そして手札は7枚、コアは１０個となる。

「ネクサス、焔竜の城塞都市を配置。そしてディノニクソーを召喚。
ターンエンド」

――――第8ターン。

「守りを固めるなら、攻め破るまでだ。スタートステップ」
コア、ドロー、リフレッシュステップを行い、合体スピリットは回復。
そしてコアは9個、手札は4枚。

「メインステップ、レーヴァテインを召喚。そして、フェニックキャノンを分離させて、セイバーシャークを召喚」

フェニックキャノンがストライクと分離し、今度はセイバーシャークとレーヴァテインが出現する。

「そしてセイバーシャークと合体！」

「今度は白のブレイヴか！」

セイバーシャークの形状が変わり、ストライクと合体すると粒子でできた刃のような物が出現する。

「そしてフェニックキャノンからコアを外して合体スピリットをＬｖ．３にアップ」

フェニックキャノンが消滅するが、合体スピリットはレベル３となり、力強い咆哮を上げる。

「アタックステップ！合体スピリットでアタック」

「龍王ジークフリードでブロック！」

翼を羽ばたかせ攻撃を仕掛ける合体スピリット。
ジークフリードはそれを迎え撃とうと、翼を羽ばたかせ、合体スピリットに向かっていく。

二度、三度とXレア同士はぶつかっていき、お互いに弾かれ、距離が離れた時、龍皇は強烈な火炎放射を放つが、合体スピリットは素早い動きで炎を避けながら、ジークに接近していき、粒子の刃でジークフリードを貫き、ジークは爆発四散する。

「勝負あり！」

「ぐっ！」

「そしてセイバーシャークの召喚時と合体時の能力を発動」

「！」

・セイバーシャーク召喚時効果。
自分のスピリット全ての『ブロック時効果』を『アタック時』に発揮させる。

・セイバーシャーク合体時効果。
ブロック時、相手のスピリットだけを破壊した時、相手のライフを

一つリザーブに置く。

「つまりブロック時効果をアタック時に発揮するため、相手ライフを一つ削る」

「ぐっ、でもこっちだって龍皇の効果がある！」

・龍皇ジークフリードＬｖ．３破壊時効果。
このスピリットが破壊された時、ボイドからコアを一つライフに置く。

「だからライフは減らない」

「ふ、だがまだアタックステップは続いてる。レーヴァテインでアタック」

「ライフで受ける！」

レーヴァテインの振り下ろした剣によってライフが減らされ、残りライフは一つとある。

「ターンエンド。絶体絶命だな」

――――第９ターン。

「ライフは一つ。確かに絶体絶命だけど、最後の最後まであきらめないぜ！」

「その意気だ」

スタートステップ後、コア、ドローを行う。
コア１３個、手札６枚。

「行くぜメインステップ！キングゴラドンを召喚！」

赤いルビーが砕け、怪獣とも呼べるような姿をしたキングゴラドンが出現する。

「さぁ、ここで行くぜ！炎を纏いし龍の皇！剣皇龍エクスキャリバスを召喚！」

キングゴラドンが炎に包まれ、その炎に影が浮かび上がったと思うと、炎を振り払い、火の粉で身を輝かせながらエクスキャリバスが地面に降り立つ。

「来たぜ来たぜ！エクスキャリバス！今日も頑張っていこうぜ！」
和人の言葉に応えるかのように、エクスキャリバスは咆哮を上げる。

「これがお前のキーカード！」

「へへっ、続けて行くぜ！エクスキャリバス、召喚時の効果でレーヴァテインを破壊！」

エクスキャリバスは出現と同時に火炎放射を放ち、それによりレーヴァテインは破壊される。

「さらにリザドエッジを召喚してドラゴンズラッシュを使用！これにより古竜を持つスピリットがバトル勝利時、回復する」

「来るか！」

「あぁ、アタックステップ！」

「来てみろ。だがここで合体スピリットの効果発動！」

・月光龍ストライクジークヴルムＬｖ．３『合体時』相手のアタックステップ時効果。
ステップ開始時、相手スピリット一体を指定し、指定されたスピリ

ットはこのターン、必ずアタックしなければならない。

「指定するスピリットはエクスキャリバス」

「指定されようが関係ない！端からアタックするつもりだ！行け、エクスキャリバス！！」

「迎え撃て、合体スピリット！」

相手スピリットのアタックによってストライクは回復し、エクスキャリバスと激突する。
エクスキャリバスと合体スピリットの翼が何度もぶつかり、激しい火花を散らす。

「フラッシュタイミング！マジック、バスターランス使用！これによりエクスキャリバスのＢＰを３０００プラスして、ＢＰ、１１００」

「無駄だ。こっちのＢＰは１３０００だ！」

「まだだ！フラッシュタイミング、双光気弾を使用！」

「何！？」

「こいつの効果は、相手ネクサス、または合体スピリットのブレイヴを破壊する効果。よって、セイバーシャークを破壊！」

「しまった！」

一気に粒子の刃で切り裂こうとするストライク、しかし双光気弾によって、セイバーシャークが破壊され、ＢＰは１００００にダウンする。

「こ、こんな事が！」

「決めろ！エクスキャリバス！！」

エクスキャリバスはその身に炎を纏わせ、そのまま炎を纏わせた突進をストライクに直撃させ、ストライクは破壊される。

「そ、そんな！」

「ドラゴンズラッシュの効果でエクスキャリバスは回復。そしてエクスキャリバス、ディノニクソー、リザドエッジでアタック！」

「フラッシュタイミング！ミストカーテンを二枚使用でディノニクソーとリザドエッジに対して使用！この効果によりディノニクソーとリザドエッジのアタックではライフが減らない！」

・ミストカーテン効果。
相手のスピリット1体を指定し、このターン、そのスピリットのアタックでは、自分のライフは減ない。

「だけど、エクスキャリバスのアタックは止められないぜ！」

「ぐっ……」

エクスキャリバスの炎によって、ライフが砕かれ、残りライフは4つ。

「手札とコア全て使用した強烈なアタック。随分手痛いぜ」

「へへっ、ターンエンド」

――――第10ターン。

（さて、さっきのマジックで手札は使い切ったが、相手のスピリットは全て疲労、そしてライフは一つ。このターンのドローでスピリットカードが引ければ俺の勝ちだ）

スタートステップ、コアステップを行いそしてドローステップ。

「何が来る！」

山札から一枚ドロー、そしてそのドローしたカードを確認すると、それはガドファントだった。

「俺の勝ちだ。メインステップ！ガドファントをＬｖ．２で召喚！」

白のダイヤモンドが砕け、ガドファントが出現する。

「アタックステップ！ガドファントでアタック！これで決まりだ！！」

「いや、まだだ！フラッシュタイミング、フレイムサイクロンを使用！」

「！？」

「フレイムサイクロンの効果は、ＢＰ５０００以下の相手スピリッ

ト一体を破壊。よってガドファントを破壊だ！」

炎を竜巻によって、ガドファントは破壊されてしまう。

「何でだ？さっきターンで手札全て使用したんじゃ？」

「俺のネクサス、焔竜の城塞都市の効果は自分のアタックステップ時、相手スピリットを破壊すれば一枚ドロー出来るんだ。だから前のターンのストライクの破壊で、一枚ドロー出来たって訳」

「しまった！ネクサスを見落としていた」

「どうする？」

「ぐっ、ターンエンド」

――――第１１ターン。

「行くぜ！スタートステップ！」

和人はその後、コアステップを行いコアは１４個に増える。

そして次のドローステップ。

「今度は俺が引く番か」

「そうだな」

「そっちは手札もスピリットも0、こっちはスピリット三体。スピリットを引ければ俺の勝ちだ」

「続けろ！俺も最後まであきらめない」

「行くぜ！ドローステップ！」

山札から一枚引き、そのカードを確認する。

「さぁ、何が来たんだ？」

リクトの方を向き、和人は笑顔をリクトに向ける。

「行くぜ！巨竜ギガノトンを召喚！」

「！」

「今度は俺が言う番だ。これで俺の勝ち！アタックステップ！ディノニクソー、リザドエッジ！行け！！」

リザドエッジは回転しながら背中の刃を、ディノニクソーは火炎放射をリクトにぶつけ、ライフを砕く。

「ぐっ！！」

「これで決める！ギガノトン！エクスキャリバス！その業火で幕を下ろせ！」

ギガノトンとエクスキャリバス、二体の炎がリクトに決まる。

「ぐわぁッ！！」

ライフが０となり、勝負が決まる。

『うおおお、すげーバトル！』
『やっぱすごいな、二人とも』

観戦者達はフィールドから戻ってきたリクトと和人を尊敬するように見る。

「やったね和人！見事に勝ったじゃない！」
咲は拍手をしながら和人に言う。

「あぁ！」

「ふ～、前あった時とは比べ物にならないほど強くなったな」

「へっ！カードバトラーは日々成長していくもんだぜ！」

「まぁ、まだまだ俺のデッキ改善する余地ありか」

そう言いながら、その場を立ち去ろうとする。

「どこ行くんだ？」

「うん？実は明日とある奴とバトルするんだ。だからそのためのデッキ改造だ」

「誰と？」

「川村劉」

「「「！？」」」

その言葉を聞いて、その場にいた全員驚いた様子だった。

『川村劉って、チャンピオンシップに出てたやつだよな？』

『そんな奴とバトルするのかよ？』

『おい、それよりあのリクトって人、チャンピオンシップ一回戦で川村と戦ってなかったか？』

「えっ！」

ある一人の声から、全員「確かに」と言った様子でリクトを見る。

「まぁそうなるな、けど俺はまだガンスリンガーをパス出来るハイランカーパスを持ってないし、実力としては全然だけどな」

「そう言う事じゃなくて、川村って奴とのバトルって事はリベンジ戦って事か？」

和人の質問にリクトは頷く。

「ちょっと待って！、和人ってリクトさんほどの人物に勝利できたの？」

「まぁ、和人も相当な実力だし、今回は力及ばずってことだな」

リクトは笑いながら言う。

「んなことねぇよ！俺は今回、運が良かっただけ。もしもう一回すれば俺が負けるかもしれない」

「おいおい、あまり謙遜するなよ。まぁともかく今回はお前の勝ち、

ただそれだけだ。まぁ長話してる場合じゃないし、そろそろ行こうかな」

「リクト！その川村って奴との試合！頑張れよ！！」
立ち去ろうとするリクトに言うとリクトは足を止める。

「まぁ力を全部出し切るさ。試合場所はここ何だが、もしよかったら見に来てくれよな」

「あぁ、絶対行くぜ！」

リクトは笑みを浮かべると、その場から立ち去っていく。

「明日、川村って人とリクト君、どっちが勝つんだろうね？」

「さぁな、どっちもチャンピオンシップに出場してるほどの実力だろ？すごい試合が期待出来るぜ！」

「じゃぁ私はそろそろこの辺で」

「お、おぉ！」

咲もバトスピショップを後にし、その場を立ち去っていく。

「リクトと川村って奴の勝負ぜひ見てみたい！それに川村って奴とぜひバトルしたいぜ！」

自分のデッキを見ながら、ただもっと強敵とバトルがしたいという願いを込めながら、ひたすらバトルに打ち解ける和人であった。

第４話『剣龍皇ＶＳ月光龍　炎と月の大激突！』（後書き）

第４話いかがでしたでしょうか！
リクトのキーカード、「月光龍ストライクジークヴルム」今では少し古めのカードですが、その力は今も健在です。今ではすっかりバースト環境ですが、ブレイヴも決してそれに劣ってはいません。

そして次回、青デッキ使いの川村劉がついに登場！
次回、リクトとどのような試合を展開するのか、ぜひご覧ください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6404x/

バトルスピリッツ 激震の勇者

2011年11月21日20時04分発行